

進路だより

都立永福学園 肢体不自由教育部門
令和8年2月3日 発行
校長 三浦 昭広
No.6 文責 鈴木 督

〇卒業生のお話を聞く会を行いました（1月9日）

中学部3年生と高等部の生徒を対象に「卒業生のお話を聞く会」を実施しました。今年は、中野区のコロニー中野（生活介護）とふらっとなかの（生活介護）に通う本校卒業生の方と、中野区立かみさぎこぶし園（生活介護）に通う卒業生の方、2名の先輩をお招きして、お話を伺いました。

生活介護事業所に通う先輩たちからは、それぞれ30分から1時間程度、朝の送迎バスに乗る時間は遅くなり、帰りバス停につく時間は早くなった、というお話がありました。一方で、放課後の時間にヘルパーを利用して、ウォーカー歩行を取り入れているというお話を伺うことができました。生活介護に進むと運動不足になりがちなのですが、御家庭の努力もあって健康的に過ごしているということでした。さらに、休日にハンドサッカーのOBチームの集まりに参加したり、中野区の主催する障害者文化スポーツ事業でボッチャや音楽療法を楽しんだりしているそうです。

後半の「質問タイム」では、生徒たちが事前に考えた質問に回答をしてもらいました。印象に残ったのは、「在学中に頑張っておいてよかったこと、もっと頑張っておいた方がよかったと思うこと」についてです。お二人からは「①健康な体づくり」、「②自分から気持ちを発信すること」、「③好きな曲を1曲作っておくこと」、「④自分の好きなこと、趣味をもつこと」の4点について回答がありました。プルコギ丼か親子丼を選択する場面があったというエピソードとともに、自分の気持ちを発信する大切さについてお話がありました。また、好きな曲を1曲作っておくことについては、音楽活動やカラオケでリクエスト曲を尋ねられることが意外と多いとのこと、多くの人が楽しめる曲だとさらに良いということも教えていただきました。



最後に鈴木から本日のまとめとして、先輩のお話を聞いて気付いたことや、自分でもやってみようと思ったことがあったら、先生や御家族とも共有したりして、将来の夢「なりたい自分像」を広げていくことの大切さについて話をしました。これからもそれぞれの自己実現を目指して、進路学習を進めていきましょう。また、「卒業生のお話を聞く会」のために先輩方が作成して下さったスライドは、中学部・高等部の廊下に展示してあります。ぜひ一度御覧ください。

〇進路学習会を行いました（1月21日）

中学部と高等部の生徒を対象に「進路学習会」を実施しました。今回は、多数の保護者の方からオンライン視聴のリクエストがあり、会場参加の皆様と共に多くの皆様のご参加がありました。

今年は、「CIL ちょうふ※」から、講師の方と助言者の方をお迎えして「自分の将来について考えてみよう」というテーマでお話をいただきました。

講師の方は、神奈川県の麻生特別支援学校を卒業後、就労継続支援B型事業所に入り、その後、実家近くでの一人暮らしを経て、「CIL ちょうふ」のスタッフとなり、現在調布市で一人暮らしをしています。当初の一人暮らしでは、ご両親の主導で居宅介護や移動支援を利用したことにより、まるで時間割のような細かなスケジュールとなってしまう、あわただしい生活になってしまったとのことでしたが、現在は「CIL ちょうふ」にて障害当事者の方の助言もあり、重度訪問介護を利用するようになり、長い時間継続してヘルパーを利用できるようになり、充実した日々を送れるようになったとのことでした。

今回の講演を聞いた生徒たちは、一人暮らしへの憧れを抱く一方で、「何を自分で行い、どこまで支援を受けるべきか」を自ら考え、選択し、実行していくことの責任の重さを強く感じたようです。真剣に耳を傾けていたからこそ生まれた率直な感想だと思います。

卒業後の進路を考え、必要な準備を進めている今の生活からすると、今回の話は少し先の未来の出来事であり、そのスケールの大きさに圧倒された部分もあったことでしょう。それでも、自分の願いをあきらめず挑戦を続けた講演者の姿は、将来の夢に向かって歩む生徒たちのこれからの生活に、きっと大きな力となって生きていくはずです。今日の学びが静かに、そして力強く支えとなることを願っています。

今回作成してくださった「進路学習会」のスライドも2階中学部・高等部前の廊下に掲示いたします。2階にお立ち寄りの際は、こちらもぜひご覧いただければ幸いです。

※「CIL」とは主に障害のある人たちが、地域で自分らしく生活（自立生活）を送ることを支援するための団体です。



進路だより

都立永福学園 肢体不自由教育部門

令和8年3月 日 発行

校長 三浦 昭広

No.6 文責 鈴木 督



○高等部2年生 進路報告会を行いました（2月28日）

高等部1，2年生と中学部3年生、さらに新宿養護学校の中学部3年生を対象に「高等部2年生進路報告会」を実施しました。高等部2年生にとって初めての実習ということもあり、緊張感を伴う実習でしたが、引率教員の助けを借りつつ、目標達成に向けて努力をする姿について報告がされました。発表会でも一人一人が、立派に発表することもできました。

最後に鈴木から、「自分の気持ちを伝える大切さ」について話をしました。実際の実習で、給食のゼリーの味をリンゴとブドウから選ぶという場面があったのですが、自分だったらどうやって希望を伝えるのだろうか、全員で考えてもらいました。自分の意思を伝える方法は、視線や表情、指差しや文字盤を利用することなど様々な方法が考えられますが、自分に一番合った方法を見つけて欲しい、といった話をしました。また将来の豊かな生活づくりに向けて、御家族や教員だけでなく、幅広い人々にも自分の意思を伝える経験も重ねて行って欲しいと伝えました。

「いつでも」「どこでも」「だれとでも」の進路のポイントを大切に学習を進めていきましょう。



○高等部3年生の進路状況について

高等部3年生は、それぞれの進路活動を積み重ね、全員が進路を決定できました。これまでの経験を糧に、新しい出会いを大切にして、社会人としてさらに活躍して行ってください！



進路先の施設名	事業体系等
新宿区立障害者福祉センター トライ工房	生活介護
社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 中野区障害者福祉会館	
社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 かみさぎこぶし園	
社会福祉法人鶴足津会 マイルドハート高円寺	
杉並区立 なのはな福祉園	
株式会社ゆたかカレッジ 高田馬場キャンパス	自立訓練
社会福祉法人 邦友会 新宿けやき園	施設入所

3月は1年のまとめの月。この1年の学びや経験、そして成長はいかがだったでしょうか。小さな成長、大きな成長様々だと思いますが、一步一步地道な歩みを重ねていくことが大切です。また、18歳には成人となることを踏まえ、精神的な成長も大切となります。学年・ライフステージの変わり目を機会に、御家庭での接し方を改めて考えてみるのも良いかもしれません。

4月にはそれぞれ新たな出会いがあり、新たな生活がスタートします。期待とともに不安もあることと思います。子供（本人）を中心に、関係者が共に手を取り応援していけるよう、コミュニケーションを大切にしていきましょう。子供（本人）を取り巻く応援団を作り育てていくことが将来の支えとなります。

障害がある当事者の子どもたちや御家族のアクションは、誰もが暮らしやすい社会を作るための大きな力となります。コロナ禍が過ぎ、地域活動やお買い物など外出しやすい状況となりました。多くの人から「見える存在」として、本人を取り巻く生活の状況を発信し、子どもたちも社会の一員として、誰もが暮らしやすい社会を積極的につくってほしいと思います。

一年間ありがとうございました。

